開催地名	京都府 城陽市
開催日時	令和6年11月11日(月)10:30～12:00
開催場所	城陽市立寺田南小学校　体育館
語り部	松井　憲(広島県広島市安佐南区)
参加者	城陽市立寺田南小学校4年生　65名
開催経緯	避難訓練等や社会科の学習で自然災害が人々の生活に大きな影響を及ぼすことを学習するが、机上での学習では、自然災害を身近なものと捉えるには限界がある。そこで、本事業の語り部の方から話を聞くことで、自然災害に対する見識を広め、防災意識の向上を図っていきたい。
内容	■はじめに 講演者の松井憲氏は、広島市豪雨災害伝承館の副館長として、防災活動に取り組んでいる。2014年に広島市で発生した大規模な土砂災害を経験し、その後、防災意識の向上を目的とした講演活動を精力的に行っている。今回の講演では、広島の災害の実例を紹介し、どのようにして命を守るべきかを考える機会を提供した。 2014年8月20日、広島市安佐南区を中心に発生した集中豪雨により、多くの土砂災害が発生し、多数の命が失われた。この地域は1960年代以降に急速に宅地化が進んだ住宅地であり、一見すると安全に見える場所であったが、実際には地盤が脆弱で災害リスクが高かった。松井氏は、日頃から地域の特性を理解し、防災対策を講じることの重要性を強調した。 ■あの日のこと 災害発生の前日である8月19日夜から20日未明にかけて、日本海に停滞する前線に暖かく湿った空気が流れ込み、局所的な集中豪雨が発生した。安佐南区では1時間に87ミリ、24時間で247ミリという観測史上最大の降水量が記録された。 広島市では、19日午後4時3分に大雨洪水注意報が発表され、その後午後9時25分には大雨洪水警報に切り替えられた。しかし、深夜帯であったため住民の避難行動が遅れたことが被害拡大の一因となった。 午前1時半頃、時間雨量84mmという大雨が2時間半にわたって発生したが、多くの人が危機感を持たないままでいた。その後、突如として土砂崩れが発生し、一瞬のうちに家屋が押し流された。避難する間もなく、多くの住民が土砂に巻き込まれ、甚大な被害を受けた。被害の大きかった地域では住宅地が壊滅状態となり、消防や自衛隊による救助活動が続けられたが、多くの犠牲者が出た。 ■その後のこと 復旧作業では、土砂の撤去が最も大きな課題となった。ボランティアの協力も得られたものの、被害の規模が大きかったため、復興には長期間を要した。 また、被災者の中には自宅に戻れず、長期間避難所生活を余儀なくされる人も多かった。松井氏は、こうした経験を通じて、避難所運営や被災者支援のあり方を見直す必要があると語った。 ■まとめ 松井氏は、広島土砂災害を教訓に、今後の防災対策として以下の点が重要であると述べた。 1.早めの避難 大雨や土砂災害警報が発表された際には、すぐに安全な場所へ避難することが重要である。特に、夜間の災害では避難行動が遅れがちになるため、普段から避難経路を確認し、家族と避難計画を共有しておくことが大切である。 2.ハザードマップの活用 自宅や職場がどのようなリスクを抱えているのかを把握し、ハザードマップを活用して安全な避難場所を確認することが必要である。 3.地域の防災意識の向上 日頃から地域で防災訓練を実施し、住民同士の助け合いの意識を高めることが大切である。 過去の災害から学び、今後の防災対策に活かすことが、未来の命を守るための第一歩であると訴えた。

開催地より	語り部の方の被災体験談は、実体験が伴っているので、やはり児童の心に深く響いたように感じる。今後の更なる防災意識向上を図っていきたい。